



日本創造学会第15期(2023年1月～2025年12月)役員紹介

会長 永井由佳里 論文誌担当



北陸先端科学技術
大学院大学
教授/副学長

このたび新会長に就任いたします、永井由佳里です。昨年12月まで理事長として、コロナ禍の中での学会活動の運営に取り組ませていただきました。突然訪れたオンライン環境、さらにはハイブリッド環境もものともせず、常に元気なチームワークで研究活動を推進しました。もともと本学会は、メンバーがそれぞれ独創的であるだけでなく、それぞれの個性をしっかりと発揮できる組織的にも創造的な学術団体だと自認しています。もしも世界中がこんなふうに創造的なら、未来はどれほど素晴らしいことかと思います。これからの社会は、いかに人類の創造性を発揮できるかという真剣勝負、まさにイノベーション時代ではないでしょうか。本学会と一緒に一歩、十歩、百歩と、自分と世界の可能性を拓いていきませんか？まもなく26巻が発行されますが、歴史ある本学会の研究論文誌は、日本における当該領域の唯一の専門的学術誌です。ぜひ積極的に投稿してください！

理事長 豊田貞光 全体統括・クリエイティブサロ担当



産業能率大学
教授

本年度より理事長を拝命いたしました豊田貞光と申します。よろしく願いいたします。さて、私達を取り巻く環境は、激変、混沌、跳躍など言葉をはるかに超えた状況下であり、過去の常識、理論、経験知、成功体験が通用しにくい局面にあると思います。一方で、学会の状況は、高齢化、対面活動自粛による連携の弱まり、研究成果や固有メソッド伝承難などの状況にあり前途多難な船出であることは間違いなさそうです。しかし、トップに立った以上必ず良き方向へ導きたいと思っております。そのために、中期(2023年～2025年)ビジョン「時代に適応した改革により、学会がより心地良い場になっている」を創りました。

具体的な改革として

①質、量とも充実した論文投稿増加 ②研究会の世相に応じたテーマ設定 ③クリエイティブサロンの価値向上 ④新旧創造技法のアーカイブ化と実装 ⑤HP、NLの磨き込み ⑥他団体連携を掲げ、各担当理事と協働し実現に向けてまっしぐらに前進します。これらの改革により、社会にそして会員の皆様知的刺激と創造的なアクティビティを提供していきたいと思っております。会員の皆様の積極的な参画を心よりお待ちしております。

副会長 國枝佳明 研究大会支援・他団体連携担当



富山高等専門学校
校長

第15期副会長を務めます富山高等専門学校の國枝佳明です。理事長、会長を支え日本創造学会の発展に努めて参りたいと思っております。豊田理事長が示す今期テーマの一つに「学び直し(リスキリング)」があります。これは単なる学び直しではなく、「価値創出し続けるために、必要なスキルを学ぶ」ということであり、まさに日本創造学会が定義する創造のための学びと考えます。

さて、起業家を比較的多く輩出している「高専」は、スタートアップ創出元年の昨年から、さらなる起業家輩出が求められています。学生のみならず、私たちがリスキリングし、新たな価値を生み続ける必要があると感じています。これには日本創造学会における研究大会やクリエイティブ・サロンのをはじめとする活動が役立つと確信しており、これらの学会活動を皆さまとともに積極的に推進し、リスキリングに努めてまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

副理事長 当麻哲哉 論文誌担当

慶應義塾大学大学院
教授

このたび、副理事長を拝命しました、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科の当麻哲哉と申します。大学教員になった2008年までは、20年弱、3M社の粘接着・剥離技術や、ディスプレイ用光学製品の開発エンジニアとして勤務しておりました（日本で12年、米国で7年半）。3Mの製品開発は、技術者個人のポジティブなマインドと、部門横断の人のつながりによるシナジー効果が機動力となっており、イノベティブ・カンパニーとしてご存知の方も多いと思います。創造性を発揮するためのスキルや、創造性を育てていく組織環境には、自身の経験とともに現在でも大きな関心事であり、創造性のための思考方法、チームワーク、プロジェクトマネジメントの教育・研究を行っております。実務経験をもって研究している者として、微力ながら本学会の発展に貢献していきたいと存じます。具体的には、研究論文誌の担当をさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

理事/フェロー 前野隆司 他団体連携担当

慶應義塾大学大学院
教授

私は創造性とウェルビーイング（幸せ、健康）の研究を行っています。創造性とウェルビーイングは関連しています。幸せな人は創造性が高いことが知られています。また、自分らしさやチャレンジ精神が高い人は幸せな人であることが知られていますが、そのような人は創造性も高いと考えられます。ちなみに私はウェルビーイング学会会長、日本システムデザイン学会副会長も拝命しています。今期も学会間の連携に基づき幸せな年となりますように。

理事 石井力重 コンテンツ編集担当

アイデアプラント
代表

こんにちは、石井力重（りきえ）です。私は仙台在住で、プレストのカードゲーム教材を開発するアイデアプラントの代表をしています。また、早大、名城大、奈良女、長大、東北工大の5大学で非常勤講師やゲスト講師をしています。私は、学会は知識創造の場であると考えており、伝統的運営と創造的運営の両輪が必要だと考えています。皆さんと一緒に時代にマッチした創造的組織を目指して取り組んでいきます。よろしくお祈りします。

理事 川路崇博 論文誌/J-STAGE担当



久留米大学 教授

Webサイトに加え、論文誌・J-Stageの担当もいたします。実践的な内容で示唆に富んだ投稿は、学術論文としての採録だけではなく、実践研究あるいは研究ノートとして広くその成果をお伝えできればと考えております。また、学会Webサイトも再構築してすでに10年が経過しようとしており、現代的とは言えない部分もあります。そこでより分かりやすい情報の伝達を考えてまいります。

理事 白坂成功 広報(外部)担当

慶應義塾大学大学院
教授

この度、理事を拝命しました白坂成功です。私はこれまで、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科で、新価値の社会実装にむけた方法論を研究・教育・実践をしてまいりました。これからの時代においては、「創造性」は、一部の限られた方だけの特殊な能力とするのではなく、広く多くの人々が持つべき能力であると思っております。日本創造学会を通じて、『創造性の民主化』を進めていきたいと考えております。

理事 西浦和樹 広報(NL内部)担当宮城学院女子大学
教授

この度、理事に選出いただきました宮城学院女子大学の西浦和樹です。たくさんの会員の皆様からご支援いただきありがとうございますございました。ご期待に沿えるよう尽力いたします。

最近の研究活動では、北欧スウェーデンの創造性教育に着目しています。教育心理学の分野では目新しい「創造性とモチベーション」「ストレスマネジメント」「学校における人工知能」など、今日的话题を提供できればと思います。(詳しくは、「脳と学習-未来の学校に必要な知識」)

理事 安松健 クリエイティブサロン担当大阪教育大学 特任准
教授/総エクサウイ
ザーズ

創造的思考法への注目はますます高まっていますが、手法を導入しても創造活動につながらないという現場が散見され、例えば、広く普及しているKJ法についても、その9割が誤用と指摘されるなど、創造的手法の真髄がまだまだ十分に伝わっていない状況です。この現状において、どのように手法実践すればよいのか、また、それを支える理論的背景をどう理解すべきかに取り組み、様々なフィールドの創造的活動に貢献できればと思います。

任命理事 杉原麻美 コンテンツ編集担当

淑徳大学 教授

任命理事を拝命した杉原です。石井力重先生とコンテンツ編集を担当させていただきます。

編集の仕事に長く従事していた私は、個性あふれる編集部員がオープンな雰囲気の中で切磋琢磨する編集部で育ちました。大学教員になって以降は、そんな「編集部のような学び場」づくりを目指しています。オープンマインドあふれる日本創造学会では、レガシー世代とZ世代の繋ぎ目を果たせたら嬉しく思います。どうぞよろしくお願いいたします。

任命理事 藤原由美 広報(研究会)担当産業能率大学
教授

任命理事を仰せつかりました産業能率大学の藤原由美と申します。慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科附属SDM研究所の研究員でもあり、主にアクティブ・ラーニングによる創造的な教育法の開発・研究を行っております。前期の監事に引き続き今期は任命理事を務めることとなりましたので、他の役員の方々と一緒に、学会の発展のため貢献できるよう努めさせていただき所存です。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

任命理事 松前あかね 研究会支援担当九州大学大学院
准教授

この度、任命理事を拝命しました九州大学芸術工学研究院（以下、九大芸工）の松前です。ボトムアップアプローチによるソーシャルイノベーション領域での25年間の実務経験を糧に、実践と理論の往還による社会的創造性（Social Creativity）研究に取り組んでいます。九大芸工では「デザイン認知論」「関係性のデザイン」「リーガルデザイン」「ソーシャルデザイン」等を担当しています。社会的創造性が発揮される場となるよう、若手と共にボトムアップで貢献して参りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

理事長顧問 三浦元喜 デジタル課題解決支援



千葉工業大学 教授

理事長顧問・デジタル課題解決支援を担当いたします。思い返せば小学生の頃、多湖輝先生の「頭の体操」が好きで、暇さえあれば読んでいました。また中学校の頃はアイデアコンテストに向けて日々構想を巡らせていました。あれから三十余年が過ぎ、日本創造学会という歴史ある学会の運営に関われることを光栄に思っております。今後の社会においてAI技術が重視されることは論を俟たないですが、一方でデジタルによる課題解決においては人間中心の発想に基づく連携・相互作用が重要になると考えます。皆様と一緒に本学会をより良い創造の場にしていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

監事/フェロー 高橋 誠



(株)創造開発研究所
代表

23年度から監事兼フェローに就任の高橋です。私は東京教育大の学生時代から、創造性の研究をはじめ、創造性を教える産能短大の講師になり、30歳で創造性教育と開発の(株)創造開発研究所を創設しました。創造学会には、1979年の創設時から参加し、理事、副理事長、理事長、会長などを経て現在に至ります。これからは皆さんのお邪魔にならないよう、創造学会をフォローするつもりです。どうぞよろしくお願いします。

監事 小粥幹夫



ひとつなぎの会
代表

教育に関心を持ち、生徒を主語とする学び支援を追求、10年以上に亘って学会仲間とシンポジウムやフォーラムを開催、本学会においても毎年クリサロを企画推進してきました。現在は探究に加えられたSTEAM教育に強い関心を持ち、超多忙な先生、生徒との接点である授業の改善にできる支援を追求しています。光ファイバ技術者としての経験を振り返り、教科書と身の回りを繋ぐ教材開発の仕組みづくりをシニア仲間呼びかけています。

評議員長 國藤進



北陸先端科学技術大学
院大学 名誉教授

評議員会は評議員の意見を集約し、理事会が健全に機能するための提言を行う役割を担います。会員の希望をモニターし、正会員を増やす戦略などを提言します。また3年後の選挙管理委員長もかねているので、健全な選挙管理の在り方を検討いたします。

副評議員長 田村新吾



(株)ワンダーワークス
代表

松岡正剛の「元来、オノマトペという擬音が行き交う世に、言葉が生まれ、文字が交信するようになった。しかし、文字を目で追うようになって、人類の脳の墮落が進んだ」（「外は、良寛」（講談社文芸文庫））という警句は、言葉で論じ合う学会員としては戸惑いもあるが、当学会は、発想法を言葉で論ずるだけでなく、その結果、個人の進路、あるいは企業の業績があったという結果創造に至る筋を注視して、会員間の心の活性化に図りたいと考えています。

フェロー 紺野登（多摩大学大学院 教授）

評議員： 五百木誠（慶應義塾大学大学院）、エド・はるみ（吉本興業株）、姜 理恵（法政大学）、櫻井敬三（日本経済大学大学院附属インテリジェンス・マネジメント研究所）、野中朋美（立命館大学）、保井俊之（叡啓大学）、由井蘭隆也（北陸先端科学技術大学院大学）

▲▼▲第77回クリエイティブサロン（2023年1月8日）開催報告▲▼▲

日本学術会議協力団体
日本創造学会

日本創造学会第77回クリエイティブサロン

『創造性を萌芽する「学び直し（リスキリング）」の探求』

参加費
無料

2023.1.8
Sun16:15-18:50
オンラインイベント

ファシリテーター
豊田貞光氏
日本創造学会理事長

日本創造学会フェロー
高橋誠氏
株創造開発研究所代表

日本創造学会フェロー
前野隆司氏
慶應義塾大学大学院教授

日本創造学会フェロー
紺野登氏
多摩大学大学院教授

今年度のMyリスキリング：
交流ディスカッション

日本創造学会フェローによるスピーチ/座談会
オンライン交流飲み会！

第77回クリエイティブサロン新春フェロー講演 紺野登氏
「創造的ディスキリング（Creative Deskillling）」
は下記のURLからオンデマンド視聴できます。

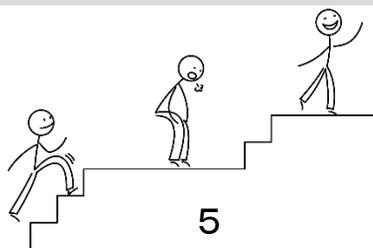
<https://youtu.be/rJ0jGGZiLUA>

第77回クリエイティブサロン新春フェロー講演 前野隆司氏講演
「Well-Beingと創造性」
は下記のURLからオンデマンド視聴できます。

https://youtu.be/DF4nYWjd_zA

第77回クリエイティブサロン新春フェロー講演 高橋誠氏講演
「自身の創造力に自信を持ちたい」
は下記のURLからオンデマンド視聴できます。

<https://youtu.be/L2K4Z7tO8D0>



ICoRD23参加報告

The 9th International Conference of Research into Design (ICoRD)



任命理事 松前あかね



バンガロールにある世界トップクラス*の大学/研究機関であるIndian Institute of Science(IISc)にて2023年1月9-11日に開催されたICoRD23に、Co-Chair、Panelist、Session Chair、Authorとして参加してきました(写真1)。ICoRDは奇数年1月上旬に開催される国際会議で、今回のテーマはDesign in the Era of Industry4.0。本学会会長の永井由佳里先生が国際学会the Design Societyに設置されたデザイン創造性SIGを2人3脚で長く支えてこられたIIScのAmaresh Chakrabarti先生のイニシアチブにより、2006年のIIScでの開催を皮切りにIIT Madras校、IIT Guwahati校、IIT Bombay校などインド各地のIITsを巻き込みつつ、第9回となる今回はIIScでの4度目の開催でした。本学会と同様に創造性をはじめデザインに関わる様々な領域の研究者・実践者・学生ら17カ国総勢390名が参加し、ピアレビューを経た300件(投稿件数705件)の発表があり、投稿論文は後日Springer Bookとして出版され主要なインデックスに登録されます。

当初、私たちは同僚・学生ら5名での渡航を予定していたのですが、直前の印中軍事衝突のため中国籍の同僚・学生のビザ発給が困難となり2名での渡航となり、個人の自由な往来や学術交流に昨今の国際情勢が否応なく与える理不尽な影響をあらためて実感しました。他方で、コロナ禍では専らオンラインで交流するしかなかった叔父的従兄弟姉妹的な研究者との3、4年ぶりの再会(写真2)は、空白を埋めるかのように怒涛の如く、この間の互いの成長や近況を共有し再始動に向かうReunion、歓喜の時でした。ちょうど会議3日目ランチタイムに月例で主宰している国際創造性オンラインゼミが重なり、ICoRDから飛び入り参加してもらおうなど対面ならではの有機的な展開もありました。

ICoRDでは安全なキャンパス敷地内のゲストハウスや会場への交通手段が提供されるのですが、諸事情で今回初めて市中に宿を手配し、会議前後に街中を探検する機会に恵まれました。バンガロールは噂通り緑豊かな街で、道路の喧騒とは裏腹に出会う人々は穏やかで誇り高く、初日から安心して徒歩やAuto(リキシャ)と呼ばれる庶民的な乗り物で風を切り街を自由自在に動くことができました。夜には辻々にあるヒンドゥー寺院での祈りの習慣や路面の宗教的サインを観察し、現地の人々に混じって道端の屋台(写真3)で揚げたてのフリッターをつまみ、初日細かい現金がなかった私に1杯奢ろうしてくれた搾りたてサトウキビジュース屋台に通い「My frequent Customer(常連)」認定されるなど、ほどよく現地も満喫できました。

インドならではの煩雑な送金など渡航までのカオスな諸手続きに加え、今回は国内外ともに国際往来体制が回復途上のためか、ビザ復活、渡航直前の要陰性証明国指定、空港エントランス、チェックインカウンター、保安検査場、搭乗口、キャッシングATMそしてロストバゲージ・・・と1つ1つ往復障害物競争のようにトラブル続きで、もう今回こそ最後にしよう!と道中疲労困憊でしたが、それらをも補って余りある3年ぶりの対面国際会議参加でした。このような混乱の渦中であって国際会議を開催し、至れり尽せり親身にホストして下さった多くのボランティアを含むIIScチームの皆様(写真4)への感謝は尽きません。次回は2025年1月8-10日にIIT Hyderabad校で開催予定です。ご関心のある方、ぜひお気軽にお声かけください!

*QS世界大学ランキング2022年研究者毎被引用件数世界No. 1等々

2021-22年度出版の著作賞のエントリーを募集します

著作賞の応募期間は2年毎で、今回の第9回日本創造学会著作賞は2021-2022年度内に発行された著作が対象となります。募集期間は5月15日までの予定です。エントリーフォームはこのニューズレター送付時に添付します。応募の著作や資料の返却はいたしません。

(著作は希望者には1冊返却しますが、エントリー時にその旨を申し出て下さい。著作は査読者が精読しますので、新品同様での返却はできません。)

詳しくは下記「著作賞選考規程」をご確認の上、ふるってご応募下さい。応募先：日本創造学会事務局

日本創造学会「著作賞」選考規程

下記の「応募基準」を満たした全エントリー著作に関して、「著作賞選考委員会」が審議して候補を決め、理事会において承認し、ニューズレターで告知する。エントリー期間は、基本的に2年毎とする。受賞件数は著作の質に依存するので明確には定めないが、概略、数件程度を目安とする。

[応募基準]

1. 応募の規定年度内に出版されたISBN取得の著作であること。
2. 単著または共著または編著・監修とする。共著の場合、応募者が第一筆者またはそれに準ずる内容を担当した筆者であることとする。編著・監修の場合、応募者が編著・監修の筆頭責任者であることとする。
3. 著作の内容は、創造性研究・実践に関する学術的または実践的なものとする。
4. 年度ごとの同一著者によるエントリーは1件までとする。
5. 過去の著作を改訂した再版は応募資格があるが、増刷は応募資格なしとする。
6. 会費完納の会員であること。



[応募手続き]

I. 自薦の場合

1. 学会事務局より送付される、エントリーフォームに必要事項を記載し提出する。
2. 著作の概要をA4版2枚以内(3千字以内)にまとめたもの3部(著作のオリジナルな点を明記する)を提出する。
3. 審査用に著作を3冊日本創造学会に寄贈する。
※応募書類・著作・資料の返還は行わない。(著作返還希望者はエントリー時に申し出る)

II. 他薦の場合

1. 他者を推薦できるのは学会賞委員のみとする。
2. 他薦する場合、著者に推薦者より連絡をとり、両名のどちらかがエントリーフォームおよび自薦の場合と同等の形式で著作の概要を書き3部を提出する。
3. 学会への納本については、最低1冊は寄贈し、残り2冊については著者より借りる(寄贈でも良い)。
4. 他薦エントリーの場合、納本やエントリー条件を満たす書類の事務局への送付などは基本的に推薦者が手続きの責任を負う。
5. 学生会員も推薦対象になる。
※応募書類・資料の返還は行わない。貸与された著作は著者に返還される。

[選考基準]

以下の点等に基づいて、選考する。

1. 学術的な価値の高いものであるか。
2. 実践的な価値の高いものであるか。
3. 創造性研究・実践の新たな地平を拓くものであるか。
4. 世界の創造性研究・実践に影響を与えるものであるか。
5. 受賞対象が共著・編著・監修の場合、著作中の本人執筆の割合も考慮し、評価の対象が執筆内容であるか、編集・監修の技術か等、選考委員会が妥当と思われるカテゴリーの賞を選定する。
6. 社会的評価の高いものであるか(下記の諸点に関して社会的評価がわかるものがあれば添付する)。
 - ・他者の研究に引用されている。・基調講演やシンポジウム等の文献となっている。
 - ・新聞・雑誌等の書評で紹介されている。・海外で翻訳されている。
 - ・インターネット等で言及がある。
7. 応募著作により、学術部門と啓蒙部門に分けて選考することができる。
8. 著作賞の質を守るために、「該当なし」の結論になることもある。

書籍紹介



「構想力の方法論」

紺野登 野中郁次郎 著

日経BP社 2,420円(税込)

これからの時代、目先の課題より、世界的な視野で社会全体の在り方を見据え、どのような方向性で臨むべきかを考えるべきだ――
紺野登氏、野中郁次郎氏が贈る新世代へのメッセージ。
この本は知識創造理論を基礎にして、いかに構想力を「次代の知力」として身に付けられるか。その方法論がテーマです。
構想力を高めるヒントやメソッド、儲け方などについて書かれたノウハウ本ではありません。構想事例（ケース）集でもありません。それらを期待する読者をはっきりさせるかもしれません。
経営の世界だけでなく、社会的活動や研究活動など何らかの構想や構想力を求められる読者も想定しています。本書が構想力について関心を持ち、実践していくための「知的資源」となれば幸いです。（「はじめに」より）

入会者（入会順）

入会者紹介

氏名	会員種	所属	住所	専門分野
黄 琪	学生会員	岡山大学大学院	大阪府	ユーザー・イノベーション 起業家活動
加藤隆宏	学生会員	大阪公立大学大学院	大阪府	神経科学 救急医学・小児救急医学
猪田大介	学生会員	東京藝術大学大学院	東京都	構造計画・建築設計
長田正範	正会員		京都府	システム開発 システムエンジニア

会費納入のお願い

2023年度の会費納入期限は2月末日となっております。学術団体である当学会は、会員の皆様の会費により運営されております。より充実した学会活動を展開するために、納入のご協力をお願い申し上げます。

※所属や住所の変更など、登録情報に変更がある方
※所属機関の会計処理の都合で2月末までの納入が難しい方
上記の方は学会事務局までご連絡をお願い致します。

【郵便振替（郵便局窓口）の場合】

00160-6-126409（加入者名：日本創造学会）

【銀行振込・インターネットバンキングでの振込の場合】

ゆうちょ銀行 店名019店（ゼロイチキューウ店）

当座 0126409 ニホンソウゾウガッカイ



事務局メッセージ

今年度研究大会は産業能率大学自由が丘キャンパスで開催の予定です。日程や詳細が決まりましたらお知らせいたします。

2023年は干支の一つ「癸卯」。「癸」は順序では最後にあたり、1つの物事が収まり次の物事への移行する段階ということです。去年までのことに区切りがつき、今までの数年間から飛躍し、私たちの生活が様々な意味で向上する年になって欲しいですね。

(事務局：比嘉)

日本創造学会 ニュースレター

2023年1月発行 (No.1)

日本創造学会事務局

発行人：豊田貞光

編集担当：比嘉由佳里

〒272-0031 千葉県市川市平田

1-10-2

Tel 080-3465-6152

Fax 047-705-1178

e-mail: jcs-info@japancreativity.jp

http://www.japancreativity.jp/